

行政視察報告書

平成26年8月6日

視察委員会名	教育民生常任委員会		
報告書作成者	高 島 真 印		
出席者氏名	委員長 福沢 美由紀		副委員長 高島 真
	委員 中崎 孝彦	中村 嘉孝	
	小坂 直親		櫻井 清蔵
欠席者氏名			
所管職員氏名	文化スポーツ室 上田 稔	随行職員氏名	議会事務局 山川 美香

視 察 日	視 察 先	視 察 目 的
7月23日	三重県 東員町	①スポーツ振興につながる取り組みについて ②スポーツ施設について <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設に見学 ・施設概要、維持管理について ・利用状況、利用促進への取り組みについて
7月23日	滋賀県 長浜市	
7月24日	福井県 あわら市	

【東員町】

東員町では、町のスポーツの担い手として、体育協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブの3つの団体が有機的に活動することを目的に「東員町スポーツ協会」が設立された。町民体育祭を毎年開催し、スポーツを通し市民の交流を図っている。

第2種公認を取得しているスポーツ公園陸上競技場は平成4年に竣工されたもので、全天候型舗装競技場で、フィールド内ではサッカーやラグビーの使用が可能である。また、テニスコート、プール、野球場を併設し、競技場一帯をスポーツ公園として位置づけている。建設時にはかなりの財政負担であったであろうが、住民から大きな反対はなく、大型団地の造成によって人口が増加する中、スポーツを通し住民の交流の拠点として効果が得られたとのことであった。

しかし、最近では、施設の維持管理費に、約1,600万円、それに対する使用料は250～300万円ほどで、施設の老朽化が進み、特にトラックウレタン部分の磨耗が激しく、陸上競技団体から改善の要望も出ているなど、施設の維持管理に苦勞しているとのことであった。

陸上競技施設については、近年、子供たちのスポーツ志向も多様化しており、陸上競技人口も減少傾向にある中、以前は芝を傷めるという理由で使用を制限していたサッカーやアメリカンフットボールでのグラウンド使用を認め、利用者の増加に繋げているとのことであった。老朽化に伴う施設の修理や公認取得のためのメンテナンスなどを繰り返しながら維持管理に努めている。

一方、スポーツ振興の面では、子ども達のスポーツへの参加を目的に、誰もが気軽に行える「なわとび」による体力づくりに取り組んでいる。なわとびは気軽であるが、リズム・バランス・体力の向上に効果的なもので、将来開催される国体を見据えて「目指せ5年後」とスローガンを立てている。

なお、地域総合型スポーツクラブを含むスポーツ協会では、今後、補助金が打ち切られることから、法人化したいと考えているが、多くの課題を抱えているとの事であった。



〔東員町スポーツ公園陸上競技場にて〕

【長浜市】

長浜市は、2回の市町村合併を経て1市8町が合併したので、たくさんの施設を抱えている。亀山市のように市長部局に生涯学習文化スポーツ課が設置されており、文化とスポーツの担当を担っているが、市のスポーツ振興事業全てを公益財団法人長浜文化スポーツ振興財団に委託をしている。市は、コーディネーター、アドバイザー的な立場であるとのことであった。

本年6月には、今後10年間の方向を示す計画として「長浜市スポーツ推進計画」を策定し、全ての市民が明るく健康で過ごすために、「スポーツでいきいき長浜づくり」というスローガンを立て、それを実現するために、特に子どもと健康に焦点を当て、スポーツを楽しむ子どもを地域みんなで育てるために「ながはま鬼ごっこプロジェクト」を展開している。これは、子どもたちが安心して外で遊べず、屋内遊びの傾向が強い社会情勢の中、運動の喜びを与えるために、文化スポーツ財団、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、学校・園（遊び時間や親子活動）、また公民館活動と連携・協働し、子ども達に鬼ごっこを通して運動遊びの機会を提供するもので、年間1,000人の参加を目標としている。

また、市役所の近くに位置する神照運動公園と、市街地に位置する浅井ふれあいグラウンドを見学した。浅井ふれあいグラウンドは、以前は、3種公認を取得していたが、施設の維持に多くの経費がかかること、また、実際に公認記録を取る様なレベルの大会の利用がほとんどないということもあり、現在は、公認取得の更新手続きはしていないとのことであった。公認でなくなると施設整備の予算もつかなくなり、施設の状態も悪くなってしまいう現状で、何をメインとするのが課題であるとのことであった。



〔長浜市役所にて〕



〔浅井ふれあいグラウンドにて〕

【あわら市】

あわら市には、県営のトリムパークかなづという総合運動公園がある。県からの指定管理を市が受けて市が運営している。少ない指定管理料で、施設の修繕等は十分とは言えず、苦慮している様子が伺えた。

トリムパークかなづは、広大な土地にサッカー場が2面取れるような多目的グラウンドの他に体育館、弓道場、全天候型ゲートボール場、遊具広場を併せ持つ充実した施設で、市内外、県内外からの利用者も多い。

高速道路のインターや鉄道の駅に近く立地条件の良さから、この施設ができて地域が発展したとのことであった。

また、温泉施設を活用し、県内外からのスポーツ合宿の利用者に対し補助金を交付し、毎年多くの学生の利用があり、まちづくりに繋がっている。

施設を公共団体が使用する場合は10割減免、市内の学生が使用する場合は、5割減免する制度を設けており、利用者への利便性を図っている。



〔あわら市：トリムパークかなづにて〕

【所感】

本市のスポーツ施設は、小規模で設備が不十分であるため、競技場や多目的グラウンドが整備されている施設を見学し、維持管理等についての説明を受けた。それぞれが施設の管理運営については、課題を抱えながらも創意工夫をされており、十分な施設があることは、スポーツを振興していくうえで非常に重要な要因であった。

今後は、当市にとって本当に必要な施設は何か十分検討するとともに、今ある施設をいかに充実させ、利便性を高め、スポーツ人口の増加に努めることが重要であると感じた。

また、公認施設については、国や県のスポーツ施設整備計画の活用を検討するのも一つの手法であると感じた。

スポーツ人口を増やすためには、幼少期からスポーツに触れ、興味を持たせることが重要であることから、東員町や長浜市のように手軽に行える運動を取り入れ、スポーツに触れる機会を提供したり、地域全体でプロジェクトに取り組むような環境整備が必要である。また、施設の使用時間を時間単位としたり、減免の制度を設けるなど、ハード面だけでなく、利用者の利便性の向上を図るため、出来ることから取り組むことを検討すべきである。